

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：看護学科

資格：教授

氏名：新田 紀枝

研究分野	研究内容のキーワード
在宅看護学, 家族看護学	在宅療養者, 家族, 訪問看護, レジリエンス, QOL
学位	最終学歴
博士 (保健学)	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア 第5版	2015年1月	1 在宅療養者と家族の支援 4 在宅看護と家族 p.53-60
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県専任教員養成講習会 講師	2016年7月～2016年8月	「看護研究」の講義をオムニバスで担当
2. 兵庫県保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師	2016年6月～現在	「クリティーク」を担当
3. 京都府訪問看護ステーション協議会 看護研究研修講師 府民公開講座 看護研究発表会 講評	2014年4月～現在	京都府訪問看護ステーション協議会に所属する訪問看護ステーションの訪問看護師に対して、看護研究の方法論、倫理的配慮に関する講義を行っている。京都府内6ブロックで行われる看護実践の場における研究について、倫理的に配慮した研究計画から発表まで継続して助言・指導を行っている。さらに府民公開講座として実施されている看護研究発表会において講評を行っている。
4. 大阪大学医学部附属病院看護部キャリア開発センター Basicコース (看護実践) 「退院支援」講師	2012年10月～現在	病院内外の看護職者を対象に退院支援に関する基礎的理論および退院支援の方法について講義を行っている。
5. 大阪府看護協会研修 看護研究4「クリティーク」講師	2011年1月～現在	看護研究の発表経験があり、研究を指導する立場にある保健師・助産師・看護師約80名 (1日研修)。看護研究概論、方法論、看護研究の倫理的的問題、クリティークの方法について講義し、論文のクリティークの演習をグループワークで行っている。
6. 大阪大学医学部附属病院看護部キャリア開発センター Basicコース (看護実践) 「家族支援」講師	2010年10月～現在	病院内外の助産師、看護師を対象に家族看護に関する基礎的理論および家族への支援方法について講義を行っている。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 化学療法による遷延性嘔気の軽減に対する足浴後マッサージの有効性	単	2004年3月	大阪大学大学院 博士論文	シスプラチン製剤を含む化学療法を行った肺癌患者 (実験群24名, 対照群21名) に対して、シスプラチン製剤投与後3～5日目に足浴後マッサージを行った結果、足浴後マッサージを受けた者の全例にR-R間隔の延長、HFの増加というリラクゼーション反応がみられ、8割以上の者に嘔気の軽減が認められ、足浴後マッサージは遷延性嘔気を軽減させるのに有効な看護ケアであることが示唆された。また、実験群対象者の足浴後マッサージに対して肯定的な評価が多く、患者の意向にあった看護ケアであると考えられる。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
2. 少産少子化時代の育児支援 一幼児を持つ母親の心身の状態を中心に	単	1997年3月	大阪教育大学大学院 修士論文	母親の心身の状態と母親の過去の経験、現在の育児支援状況、母親の育児行動との関係を明らかにする目的に、1～3歳の幼児をもつ母親164名に質問紙調査を実施した。結果、母親の心身の状態は①実父の養育態度とその印象の是非、②乳幼児と遊んだ経験、③情緒的支援、手段的支援者数と夫の支援の有無、④夫婦間のコミュニケーションの有無、⑤身内の情報源の有無、⑥生活、育児の満足感の有無と強い相関があった。さらに心身状態が不安定な母親は、①子どもの生活リズムが乱れている、②一貫した態度で子どもに接することができないという問題が認められた。
3 学術論文				
1. オストメイトと家族のレジリエンスの因子構造とレジリエンスに影響する要因	共	2017年3月1日	武庫川女子大学看護学 ジャーナル第2巻	オストメイトの家族が経験する困難を乗り越えるプロセスに機能する力であるレジリエンスの構造、及び影響する背景要因を明らかにすることを目的とした。家族のレジリエンス項目は3因子が抽出され「問題解決力」、「支援認知力」、「前進的思考力」と命名した。信頼性、妥当性の検討を行い、尺度として使用できることが確認された。重回帰分析の結果、家族のレジリエンスに影響する要因は、主に「家族が排泄物に影響する食事や飲み物の知識を持ち、日々の生活に生かすことができている場合」であった。
2. 高齢者に対する足浴は有酸素運動となるか	共	2017年3月1日	武庫川女子大学看護学 ジャーナル第2巻	本研究の目的は足浴が膝関節などの運動器に負担をかけない有酸素運動になるか検討することである。高齢者29名（平均73.2歳）を対象に、足浴を30分間行った。脈拍数、前額部および両下肢皮膚温の測定、主観的な運動感の評価の分析を行った。結果、40%の運動強度となる脈拍数になった者はいなかったが、主観的評価では「運動した感じ」の変化に有意差があった。足浴が有酸素運動になるかの指標として脈拍数ではなく、酸素消費量等の観点からの検討が必要と考えられた。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 難病療養者のつらい思いをきくツールとして「センター方式シート」の一部を利用した訪問看護の実践	共	2015年11月2日	第5回日本在宅看護学会 学術集会	神経難病の1症例の経過を通じて「センター方式シート」（認知症の人に適したアセスメント・ケアプラン作成指針として、認知症介護研究研修センターが開発）の一部「私の姿と気持ちシート」を使用して療養者のつらい思いをたずね、療養者の苦悩を明確にすることができ、多職種の支援に繋がった実践を報告した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 外来がん化学療法を受ける訪問看護利用者とは家族に対する熟練看護師による看護ケアの分析	共	2016年5月	公益財団法人フランス ベッド・メディカルホ ームケア研究・助成団 体平成28年度（第27回） 助成事業費	研究分担者
2. 「在宅療養者と家族のQOLに影響するレジリエンスの解明と在宅療養支援モデルの構築」	共	2015年4月～ 2017年3月	科学研究費補助金 基盤 研究C	研究代表者
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2016年6月23日～2018年6月	公益社団法人兵庫県看護協会 地域ケア推進委員			